

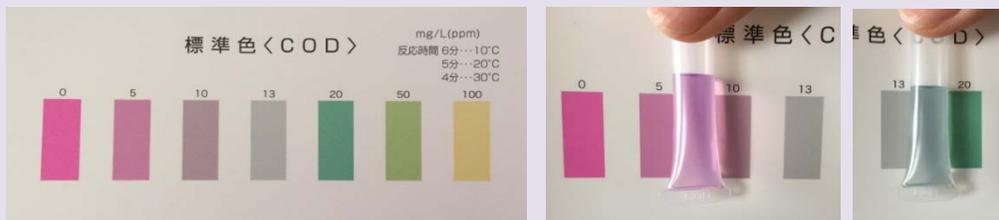
【全体概要】

水稲は、その窒素吸収量の60～70%を土壌有機物の分解に伴い発現する地力窒素に依存している。このため、地力窒素を把握して適正な施肥を行うことは、水稲の生産性向上につながる。農研機構が新たに開発した水田土壌可給態窒素の迅速評価法の本県水田土壌への適応性を明らかにするとともに、産地の意見を反映した評価法を確立する。

新品種・新技術等の概要

【水田土壌可給態窒素の迅速評価法】

乾土に蒸留水を加えて25℃で1時間振とう後ろ過し、ろ液の有機態炭素量(TOC)か化学的酸素消費量(COD)を測定する。測定値から可給態窒素量を推定し、地力窒素を評価する。



COD簡易測定キット

主な取組内容

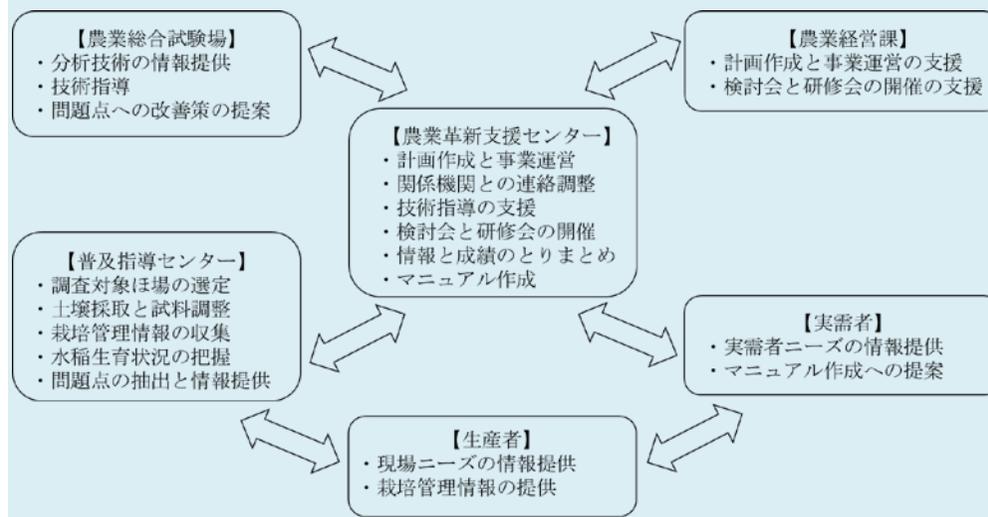
【土壌試料の採取・分析】

- 現地184地点の土壌採取(10~12月)
- 分析データの収集と蓄積(11~3月)
- 土壌試料の採取ほ場設定に係る検討会(12月)
- 分析状況と問題点に係る情報交換会(3月)
- 分析研修会(1~3月)

【先進地事例調査】

- 水田土壌診断の事例調査(群馬県)
- 新たな評価法の活用事例調査(富山県)

実施体制図



課題と今後の対応

【課題】

新たな評価法の県内水田土壌に対する適応性を明確にする必要がある

【今後の対応】

- 従来法と新たな評価法での分析
- 分析結果と活用方法に係る情報交換会
- 調査結果とりまとめと技術マニュアルの作成
- 技術マニュアルのアウトリーチング活動